

うわけにはなかなかいかないところをご理解をいただきたいと思います。

鈴木良雄議長 15番、藤原民夫議員。

15番 藤原民夫議員 国保税については、昨年、医療費分が引き上げられたと。そして、介護分については、昨年に引き続きことしも引き上げられるというふうなことで、大変な状況だということは先ほど来申し上げたんですが、そこで、この視点を変えまして、今回の17年度の長井市の予算を見て思ったんですが、今回の予算について、普通建設事業が前年度から比べて1億3,000万円ふえておるんですね。財政の健全化ということで、この普通建設事業を抑え込んできた。それは、今までの膨大な建設事業のツケが回ってきて、そのための財政健全化ということで努力されたわけですが、しかし、まだ健全化のあれが定着してないのではないかというふうに財政状況を見ますと思うんですが、果たして昨年の3億6,000万から今回4億9,000万というふうな総額で建設事業費が上がっているというふうなことでありますが、しかし、これを抑制すると、これを抑制するということは、つまりこの建設事業というのは後年度負担、管理費とかですね、いろいろな後年度負担の伴うものでありますから、これをやっぱり抑制しながら、そちらの方に回して市民生活を少しでも一歩でも苦しみから解放するというふうな努力が図られなかったものか、その点を最後にお聞きをいたしたいと思います。

鈴木良雄議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 建設事業等についても、この数年間我慢をしていただいたということをご理解をいただけたと思います。その中でも、例えばダム事業等が今、最盛期に入っておりますから、今の時期にやった方がいいと、そうするとやっぱりある程度の国等の支援も期待できるものについては少し前倒しをさせていただいた。それから、地域的なバランスも考えなけれ

ばいけないというところで、こういった予算になったところでもあります。決して、大盤振る舞いしたわけでもありませんし、そういった意味では極力配慮しながら、市民の皆さんのご要望にもこたえろと、12月議会でも何人かの皆さんからもありましたから、そういった皆さんの声にも配慮しながら全体的なバランスを考えて予算を組ませていただいたと思っております。ご理解をいただきたいと思います。

鈴木良雄議長 15番、藤原民夫議員。

15番 藤原民夫議員 私は、最後に社会保障の先ほど来申し上げました連続的な切り捨て、そして市民生活への際限のない痛みが押しつけられていると、こういうことに対して、いろいろな制約があるというふうな市長の先ほど来の答弁であります。しかしまた、そういう制約の中でも住民の納税者の立場に立った施策を行っている首長さんが全国にはたくさんおられるわけで、それなりの実績を上げておられると。それは、やはり先ほど来申し上げました憲法25条が掲げる生存権を保障すると、何よりもそこに住んでおる方々の命と暮らしを大切にすると、それがこの社会保障制度というふうなことであろうと思いますが、この制度を確立するかどうかということが、今、首長に大きく問われている課題ではないかということでもあります。

今も将来も安心できる介護保険制度、あるいは安心して暮らせる税制というふうなことを、ぜひ審議会の皆さんの意見もお聞きしながら、ぜひそういったものの確立のためにもう少し知恵も力も注いでほしいということをお願いいたしまして質問を終わるものであります。

ありがとうございました。

谷口栄子議員の質問

鈴木良雄議長 次に、順位7番、議席番号4番、谷口栄子議員。

(4番谷口栄子議員登壇)

4番 谷口栄子議員 3月定例会に当たり、公明党長井支部を代表して質問させていただきます。

初めに、公明党は1964年11月17日、初の大衆政党として結成されました。結成大会が開催された東京両国の日大講堂には、日本の柱公明党、大衆福祉の公明党とのスローガンが掲げられ、結党時、既に参議院で15議席、地方議会で都議会を含む1,204人の議員を擁する政党として出発しました。その後、67年1月衆議院選で25人が当選し、衆議院への初の進出を果たしました。

自民・社会両党の55年体制が崩れ始めたのは、89年7月の参議院選で自民党が大きく過半数割れをしたことがきっかけです。この選挙の結果、参議院選においてキャスティングボード、政策の決定権を握りました。

外交、防衛問題など重要法案の採決では、国民にとってプラスかどうか、より活発な党内論議を展開し、その端的な例が92年6月成立したPKO国連平和維持活動協力法の対応でした。湾岸危機の教訓から、世界の中の日本、どう生きるべきかとの課題に真っ正面から取り組み、一国平和主義から世界平和主義に立っての責任ある政策決断を行い、行動する平和主義の確立に努力してきました。

政治の安定と改革の断行を目指し、自民党との連立政権が樹立されたのは99年10月です。ことしで6年目となります。一昨年11月の衆議院選、昨年7月の参議院選の勝利で連立与党の安定した政権が続いています。公明党は、日本の政治に責任を担う第3党へと発展しました。

昨年10月31日、結党40周年の党全国大会が東京で開催され、再び神崎武法代表が党代表に就任されました。幾多の風雪を乗り越えて時代とともに成長できたのは、40年間一貫して大衆と

ともに語り、大衆とともに戦い、大衆の中に死んでいくとの立党精神を胸に庶民の願いを党の願いとして行動しているからです。庶民の声を政策に反映し、教科書の無償配布、児童手当制度の創設、これまでの政治では顧みられなかった福祉、社会保障制度を政治、行政の主要テーマに押し上げてきました。

2003年の衆議院選で掲げたマニフェスト、政策要綱は123項目で、これまで40項目を実現させ、残りは推進中です。生活者の目線で政策を前進させています。

それでは、質問に入ります。

1点目、施政方針から二つ質問させていただきます。

2期8年を公約に財政再建を掲げ出発した目黒市政、改革、前進、全員参加をモットーに進められてきた行財政改革は、総負債額386億円から348億円で、38億円、約10%が減となったこと、平成16年度の公債費21億9,000万円が平成17年度から15億6,000万に推移する予定となったこと、人件費が29億6,000万円から24億8,000万円で、4億8,000万円、約16%減となっていること、大きな成果が示されてきたと評価します。

新たに「協働・創造・未来の鼓動 実感“ながい”」の基本構想にのっとりながら市民全員参加での自立のまちづくりへの取り組みが大事と思います。

観光も大きなまちづくりの目玉となると市長は述べられております。昨年の3月、観光協会に女性部会が発足し、はや1年となります。1周年記念フォーラムを3月24日開催いたします。桜回廊、つつじまつり、黒獅子まつり、あやめまつり、水まつり花火大会にかかわって感じたことや要望を昨年9月一般質問で取り上げ、私も観光はもてなしの心でと提案してきました。観光協会を商工会議所の中にとの話になっていますが、商工観光課を中心に観光協会、ほかの

まちづくりNPOグループが連携をとり、一つ一つの祭り、イベントに協力し合える体制づくりが大事ではないかと思えます。

今後の観光行政についての市長のお考えを伺います。

二つ目、地域発の美化推進運動、環境のまち長井、協働のまち長井を築く力であると思えます。

アフリカの環境の母、ワンガリ・マータイ博士が2月16日の地球温暖化防止に関する京都議定書の発効に合わせて来日されました。ケニアの環境副大臣を務めるマータイさんは、南アフリカの女性として初めてノーベル平和賞を受賞されました。環境保護運動、グリーンベルト運動を創設した緑の闘士です。これまでの30年間で3,000万本の木を砂漠に植え続け、緑を守ってこられました。1人から10万人の女性の心に活動の輪を広げた勇気の人です。環境映画「静かなる革命」の中で、博士は「人間はさまざまな問題を地球規模の大きな次元でとらえてしまうと無気力を覚えてしまう。しかし、身近なところから行動を起こしていくことで力を発揮していくことができる」と語っておられます。

施政方針の中で紹介された四ツ谷地区のフラワーロードの取り組みは、一人一人の自発の行動で楽しみながら行っております。私も、主人と二人で参加し、二つの花壇を管理しております。また、去年は四ツ谷地区婦人部で公民館活動として活性化事業でガーデニングに取り組み、その知識をフラワーロードへと展開し、地区のすんべえ会の皆さんと協力して貝崎団地前の花壇に花を植え、管理してきました。きれいな花が咲き、四ツ谷地区を通る多くの方々からきれいだと声をかけていただきました。

市内では、ほかにも浦原地区、宮原地区でマリーゴールドや赤いサルビアの花を道路のわきに植えておられます。川原沢地区、平野地区学習プラザ通りなどでも毎年きれいな花を咲かせ、

花いっぱい運動に多くの方が黙々と取り組んでおられます。花は、見る人に安らぎと大きな感動を与えています。

そのほか、水まつりを中心に、最上川河川緑地公園の花壇にはフラワー隊の皆さんが多くの花を植栽され、水をかけて管理されております。自分の住む地域から、できることから参加していくことで、きれいなまち、美しいまち、花の長井、環境のまち長井が築けるのです。まち全体が公園構想の取り組みにつながります。観光客がいつ訪れても美しいまちづくりは、地域発の美化推進運動から始まることで協働のまちづくりが進むと思えます。

市長が会長で最上川流域観光交流推進協議会が設置されております。新しい形態の体験観光、リバーツーリズムが本年度のモデル事業に選定されています。どのように取り組まれるのか市長に伺います。

一つ目の観光行政については、昨日の一般質問でほかの議員の皆さんの質問にお答えいただいております。つけ加えるところがありましたらお答えいただきたいと思えます。よろしくお願いたします。

次に、2点目、子育て支援策の拡充について。

一つ目、学童保育の状況についてであります。

昨年11月、平野児童センターで、利用する人数が多くなり平野小学校の空き教室を借りようかと心配されたことが耳に入りました。その後、定員数に戻ったことで移動せずに済んだと聞いております。今度は、17年度4月に入学する長井小学校の児童で中央児童センターを利用する人数が定員を超えることで、その対応に苦慮しているとのことでした。

ほかの市町村では、小学校の空き教室を学童保育に利用しているところも出ています。どのような対応を考えておられるのか福祉事務所に伺います。

二つ目、2005年度の国の予算に子育て支援策

として地域の特性や工夫を生かす交付金が創設されました。子育て支援センターで取り組んでいるつどいの広場にも、年々充実しておりますが、若いお母さんが子供と一緒に集ってこられ育児相談をされているのを見ます。安心して子供を産み育てられる環境づくりの一環として育児支援家庭訪問事業に取り組んでほしいと思います。

この事業は17年度創設されたもので、米沢市では増加する育児相談にこたえる方針でこの事業を取り入れられております。この点について福祉事務所長にお伺いいたします。

次に、3点目、学校の安全対策について。

一つ目、児童生徒の通学時の安全確保に対する取り組みについてお聞きいたします。

大阪府寝屋川市の小学校で起きた教職員殺傷事件をきっかけに学校の安全対策が大きな問題になっています。子供たちを守るために国レベルでの対策について、党政務調査会の治安・学校の安全対策プロジェクトチーム田端正広座長衆議院議員が具体策の取りまとめを行っております。

大阪府では、児童8人が殺害された大阪教育大学附属池田小学校の事件、2001年6月を教訓に各自治体が安全対策を積極的に推進しております。全国の幼稚園、小中高校などを対象にした調査で、昨年3月現在、防犯カメラやセンサーなど防犯監視システムを整備した学校の比率が、大阪府で78.8%と47都道府県で最も多く、ことしの事件を受け大阪府知事への申し入れで公立小学校に警備員が配置されます。

二つ目の学校への不審者侵入防止についての対応はどうでしょうか。

大阪府では、各小学校ごとに、警察官OBの助言を得て地域住民が通学路の警戒活動を行い、子供の安全を見守っています。安全見守り隊を組織する自治体が多く出ております。

また、三つ目に学校ボランティア見回り隊の

設置について。

福島県郡山市では、公用車やタクシーの協力で1,400台に不審車警戒中のステッカーを張り市内を巡回していると言われます。地域全体で子供たちの安全について取り組む、通学路の安全マップの作成、PTAや地域の関係機関、団体との連携などで、より安全な対策がとられております。長井市においての対応はどのようになっているのか教育長に伺います。

最後に、乳がん検査の受診率向上についてお尋ねいたします。

厚生労働省は、2月28日、乳がんの早期発見に役立つ乳房X線撮影検査、マンモグラフィーの2003年度の都道府県別の受診率を公表いたしました。乳がんは女性のがん罹患率の1位で、年間約3万5,000人が発症、約1万人が死亡して増加傾向にあります。

受診対象を昨年4月から40歳以上に拡大されております。受診率で高いのは富山県で10.8%、山形県では8.3%、受診率を60%から70%に上げていかないと死亡率の減少効果は出ないとの報告が出されております。マンモグラフィーの使用と今後の対応について健康課長に伺います。

以上で壇上からの質問を終わります。

ご清聴ありがとうございました。(拍手)

鈴木良雄議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 谷口議員のご質問にお答えをしながら、私の考えも述べさせていただきたいと思っております。

まず、今後の観光行政についてであります。長井市の観光事業が観光協会を中心に、また花中心にやってきたということはお案内のとおりであります。先人、先輩の皆さんがしっかりと努力されたということには敬意を表したいと思います。さらに、長井市は、これらのこれまでの観光事業に、さらにフットパス事業とかまちなか散策事業であるとか、いろいろな事業をプラスをしていきたいと、そして地域の魅力をア

ップしていききたいと、バージョンアップをしていききたいというふうに私は思っております。

そのためには、やっぱり民間の皆さんが総結集するということが私は今大切なのではないかと。幸い、若い皆さんが非常に今、活発であります。NPOセンターの皆さんは、秋祭りもやるシンポジウムもやる、冬もやる、いろいろな意味でまちづくりをして、みずからまさにボランティアで頑張らせていただいております。

それから、観光協会の女性部の皆さん、これも非常に、新たにつくって活発に活動していただいております。こういう女性の皆さんの組織も、私は長井は非常に分厚いのではないかとこのように思います。若い皆さんの鍋将軍の連続でとった商工会の青年部の皆さんであるとか、私は勤労センターの若い利用者の皆さんであるとか、青年団体連絡協議会がしっかりと活動しておられる今を、さらに少し総結集できるような体制づくりが必要なのではないかとこのように私は思っているところであります。

そういった意味で、長井はもともと民間が非常に分厚いところであります。商工会議所を中心に老人会もありますし、いろいろな各種業界団体の皆さんも活発に活動しておられる。観光協会や商工会議所の皆さんはもとより、NPO法人等の皆さん、若い皆さん、女性の皆さん、そういった皆さんと一緒に総結集をして、事業の推進に当たっていただきたいと、行政はサポート役に徹したいというのが私の観光行政に対する思いであります。ご理解をいただきたいと思っております。

次に、地域からの美化運動が大切だというご指摘であります。まさに、そのとおりだと思います。地域の皆さんの盛り上がりによる環境美化、これがやっぱり、いつおいでいただいた観光客の皆さんにも満足をしていただける、あるいは長井は美しい、きれいだなというふうに思ってもらえる、そしておいでいただいた皆さん

んに具体的なおもてなしの心で案内をしながら、いろいろとサービスもしていくということが大切ではないかと思っております。

今、市内では、市内を花で飾ろうという花いっぱいコンクールが来年度で21回目を迎えます。その中から、近年、特に四ツ谷の運動なんかは、通りがそれぞれ責任を持って一つ一つの木の下が多彩に個性を持ってやっておられるわけですが、このコンクールへの参加団体はほぼ34団体、市内全域に上っております。そして、川原沢の皆さんであるとか、平野の皆さんであるとか、あるいは個人的にまちなかの皆さんなんかは毎年花いっぱい運動への継続的な取り組みをしていただいているということに、大変私は長井市のレベルの高さを感じておるところであります。

さらに、多くの市民の皆さんが公園等で清掃ボランティア活動等もやっていただいております。南北中学校の皆さん、スポーツ少年団の皆さんなども積極的にやっていただいているというふうに思います。したがって、今後とも市内全域で四季折々の花が咲き誇る風景を、これまで以上にバージョンアップするために、民間の皆さんにぜひ呼びかけをしてご協力をいただいて、長井をさらに花で飾るきれいなまち、美しいまちにしていきたいと思っておりますので、ご理解をいただきご協力をいただきたいと思っております。

子育て支援については福祉事務所長、それから学校の安全対策については教育長、乳がん検査については健康課長へのお尋ねでありますので、以下はそれぞれに答弁をしていただきたいと思っております。

以上です。

鈴木良雄議長 大滝昌利教育長。

大滝昌利教育長 谷口議員のご質問にお答えをしたいと思います。

寝屋川市立中央小学校の事件というのは、何

が学校現場の限界を感じるような事件だったなというふうに私はとらえているところです。谷口議員の方からは3点大きく質問がありますので、それについてお答えをしたいというふうに思います。

まず、児童生徒の通学時の安全確保に対する取り組みについてですけれども、市内の各小中学校の実態をお知らせをしたいというふうに思います。

現在、各小中学校では、PTAを中心に教職員とともに定期的に登校時にあいさつ運動を兼ねて立哨指導をしているというのが一般的で、下校時は、小学校の方は下校時間がばらばらで特別なことはやっていない状況ですが、中学校の方では自転車の乗り方指導とか、ライトの点灯点検等を兼ねてPTA、教職員、または学校によっては協議会等の力をかりて月1回程度行っています。子供110番も現在285カ所設置されています。各学校ごと児童、保護者への周知徹底を踏っているところですし、1月1日付の市の市報にも掲載して市民にも周知を図りました。

全国的には、子供の通学時間に合わせて犬の散歩をしたり、または自宅前の道路の清掃をするという取り組みも行われているようだけれども、地域の子供は地域で守るという機運を盛り上げることはとても大事なことです。各学校ごとPTAを中心に地域にお願いすることも検討してもらいたいというふうに思っているところですし、昨年、西置賜地区のPTAの連合会の総会の席でもそういうお話をしてきたところでした。

学校のボランティア見回り隊の設置についてですが、きのう町田議員からもありましたけれども、基本的には横の連絡を密にした組織づくりは極めて大切であるというふうに認識をしています。長井市内の小中学校で、特に長井小学校ですね、PTAと連携して安全パトロールボランティアを募集して、きょうから、3月9日か

ら3月18日まで下校時にパトロールを実施する計画を立てています。28名のボランティアが集まったということ聞いていますし、長井警察署の生活安全課の署員、教職員とともに子供の安全を見守っていききたいということでした。来年度のPTA総会時に正式に発足させて活動する計画だそうです。長井小学校の今年度の実践に学びながら、他の小学校にもPTAの会議とか校長会を通して、そういう組織づくり、これを働きかけていきたいというふうに考えています。

また、きのう市長の答弁にもありましたけれども、長井市地域安全推進条例に基づいて、市内には清水町、中道、四ツ谷、新町、平野の五つに安全推進連絡協議会が設置されていますので、市民課と相談しながら小学校のPTAと連携した活動ができないか検討をしていきたいといます。

過日、長井警察署の署長さんとお話した折に、小学生の下校時間帯に合わせた通学路のパトロールや不審者対応のための校舎周辺のパトロールを強化したいというお話でしたので、ぜひお願いしたいということをお願いをしてきているところです。あと、市民の方で、これも警察の話だったんですけれども、車にステッカーを張って巡回をしてくださっている方もおるといことも聞いているところです。

3番目の学校への不審者侵入防止について、これも現在、各学校の取り組みについて5点ほどお話をしたいというふうに思います。

一つは、校門に不用者の立ち入りを禁止する看板を各学校設置しています。これは、拳動不審者に警察が対応しやすいということで、警察の指導もあって平成14年度から設置しています。

2点目ですが、各学校に平成15年度、長井工業より、さすまたを1本から2本いただいて備えています。生活安全課の協力を得ながら、さすまたを使った不審者の対応訓練を行っている

状況です。

3点目ですが、さっきあった池田小の事件のときに、平成13年度に各小学校1階教室に携帯用の防犯ベルを常備しています。ただ、緊急の場合は非常ベルを使用してもいいというふうに許可をしているところですし、消火器の使用も考えている学校もあります。学校によっては、教職員一人一人がホイッスルを所持しています。

4点目ですが、登下校時間を除いては職員玄関だけあけておくように気をつけているという状況です。ただ、体育でグラウンドに出る場合、どうしても生徒玄関をあけざるを得ないと、そのまま生徒玄関があけっ放しになるということもありますし、夏分についてはやっぱり暑くて戸を閉めておけませんので、非常口とか生徒玄関とか体育館の部分とかは、あけっ放しになるということはありませんので、常時職員玄関だけという実態にはありません。

5点目ですが、来校者には教職員は声をかけるようにしていると。保護者の方には、来校した場合には職員室か事務室に声をかけるように通知しているというのが一般的に学校でとっている対策になります。

防犯カメラの設置についてですけれども、ご存じのように市内の小学校は、長井小学校、伊佐沢小学校を除いて職員室、事務室が2階にありますので、来校者が確認できにくい状況になっているので、そういう意味では防犯カメラの設置は有効かと思いますが、常時モニターで監視している人がいない、そういう人的配置になっていない、また、入る気なら、先ほども申し上げましたように、どこからでも入れるような状況ですので、防犯カメラの設置については、その機能が十分に生かされるかどうかというのを慎重に検討していかなければならないというふうに考えているところです。

各学校からも意見を聞いたんですけども、先ほど申し上げましたように、やっぱり常時テ

レビを監視できる人がいないとか、職員玄関に限らずどこからでも入れる状況ということで、防犯カメラの設置については疑問視する声の方が多かったなというふうに感じています。ただ、本当に今こういう世の中ですので、不審者対応については万全を期していきたいというふうに考えているところです。

以上です。

鈴木良雄議長 宇津木正紀福祉事務所長。

宇津木正紀福祉事務所長 私の方から、学童クラブの状況についてと育児支援家庭訪問事業についての2点についてお答え申し上げます。

谷口議員ご指摘のとおり、平成17年度の中央学童クラブについて、募集人員50名に対して1年生が28名、2年生が18名、3年生が18名ということで、きょう現在で64人の学童の申し込みがあります。特に、1年生28名ということで予想よりもずっと多い状況で、今の中央児童センターでの学童保育はかなり難しいという状況が出ております。

市長が、きのう町田議員の質問に対しましてお答えしましたとおりに、学童保育についてはしっかりできるようにしていきたいという答弁のとおりでありまして、福祉事務所では、この64名の方全員をお引き受けできるような体制にもっていききたいというふうに考えているところです。

それで、まず、検討した点については、平成12年11月21日から平成13年の2月3日まで、長井小学校で学童クラブをとということで校舎を借りた経過があります。これは、中央児童センターが増築のために必要だった措置でありまして、この期間小学校からお借りしたということで、再びお借りできないかということで、教育委員会と長井小学校の方に福祉事務所の方で問い合わせしてお願いしたところ、両者とも前向きにご検討いただいたところですが、現在全く使っていない教室がないということと、それから学

童とほかの子供とのスペースについては、境がはっきりすることができなくて管理が大変であると。また、下校時間がばらばらでほかの子供との区別がつけにくいということ。さらに、子供たちの影響を考慮すれば、同じ学校内で学童とそれ以外の学童との対応の差が生じまして、教育上余りよくないのではないかというふうなことで、これからまた別な視点で、できるような方向で教育委員会でも皆さんに考えていただきたいというようなご回答を得たところでございます。

特に、今回は年間を通じてということで前回と違ったような状況でございますので、長井小学校の借用は現時点では難しいのかなというふうな考えておるところでございます。ほかのところを何とか、子供たちにとってよい環境であって、経費的にできるだけ安く済むようなところを今検討中でございます。

それから、先ほどご質問あったほかの市町村でしているところはないかというご質問でございましたが、13市の中では酒田市が数カ所と寒河江市の方で1カ所実施しているところがございます。そういうふうな調査をしたところでございます。

それから、2番目の育児支援家庭訪問事業でございますが、この事業につきましては、平成16年度に補助事業としてありまして、17年度からはソフト交付金という名称に変わりました内容も若干模様がえ、少しの模様がえでございますが、実施される予定の事業でございます。長井市については、ニーズがまだ少ないのではないかとということと、保健師、保育士等の人材確保それから予算確保が難しいということから、17年度の事業実施については見送っておるところでございます。

しかしながら、家庭でのお子さんの支援ということで、17年度につきましては子育て支援センターの充実を図る予定でございます。本年度

については、専用のスペースを確保しながら、人員体制もさらにしっかりしたものにしていく予定でございます。

それから、健康課の方で実施しております第一子出産時に保健師が家庭訪問しまして育児指導それから相談している事業もございまして、さらに健康課の方でもこれをもっと充実させていきたいというような考えを持っているところでございます。

それらの二つの事業をうまく連携させまして、ご家庭の方から要望があれば、この事業がなくても、いつでも訪問できるような体制をとってまいりたいと思っておりますが、家庭に行くということ是非常にデリケートな問題がございますということで、育児に対しての自信をなくすようなことにならないように、十分細心の配慮をしながらご家庭の方に入らせていただきたいというふうな考えているところでございます。

以上、2点についてお答え申し上げました。
鈴木良雄議長 船山祐子健康課長。

船山祐子健康課長 では、お答えいたします。

乳がん検診の受診率でございますが、平成15年度の県の調査によりますと、県平均は31.6%で、長井市は45%ということで、13市の中ではトップでございました。乳がん検診の受診者数の推移につきましては、平成14年度1,641人、15年度1,618人、16年度1,733人でございました。

マンモグラフィーの検診ですけれども、平成12年度から長井市では人間ドックの中で受診者に対して行っております。15年度からは40歳以上の希望者に、全額実費ではございますが、南陽検診センターで試験的にということで実施している状況です。17年度からは、より精度な検診体制ということで、視触診の単独検診は廃止します。それで、40歳以上の方につきましては、すべて視触診とマンモグラフィーの検査ということで実施したいと思っております。料金につきましては、検診料金の6割程度を助成いたし

まして、受診者の負担軽減を図ってまいりたいと思っております。

また、マンモグラフィーの検査につきましては、視触診では見つけることのできない本当に初期の段階の発見になりますので、被爆リスクとか費用対効果等を考えた場合は2年に1回の検診期間でも十分適切だというふうな国の見解も出ておりますので、長井市は2年に1回の受診ということにさせていただきたいというふうなことで思っております。ですので、最低2年に1回は、40歳以上の女性の方はマンモグラフィーを受けるんだというような市民への啓蒙、市報等の特別欄に設けて掲載したりとか、あとは未受診者への受診勧奨、さらには女性団体等への呼びかけによりまして皆さんに受けていただくということで受診率の向上に向けて取り組んでまいりたいと思います。

以上でございます。

鈴木良雄議長 4番、谷口栄子議員。

4番 谷口栄子議員 ありがとうございます。

市長の先ほど答弁いただきましたけれども、長井市の観光協会女性部会の1周年記念フォーラムを3月24日行う予定になっております。この記念には、記念講演を行いまして、講師には佐藤真弓氏、元山寺芭蕉記念館の事務局長をなさっている方なんです。演題は、「蔵開け 大作戦」。さらに、公開討論会を、コーディネーターに浅香憲一氏、パネラーに阿部則秋氏。浅香氏は、美しい山形・最上川フォーラム運営委員、最上川文化部会長をなさっている方です。阿部則秋氏は、山寺風雅の国専務取締役。さらに、伊東秀幸氏、蔵王温泉の観光協会の会長をお招きしております。これに、女性部会部会長であります佐藤俊子氏、観光協会女性部部会長、さらに高齢社会をよくする山形の会の代表も務めております。皆さんでパネルディスカッションをしていただきながら、残された財産をみんなで生かそうというテーマで新しい長井の観光

に市外の方の意見をいただきまして観光事業に光が当てられるものと期待しておりますけれども、これには商工観光課長、市長を初めご案内がなされると思いますが、本会議の日程ということで、どなたかご出席いただくようにということになっております。

その点につきまして。

鈴木良雄議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 ぜひ、ご案内をいただければ、ぜひ出席したいと思いますが、9時から議運で10時から議会の最終日でありますので、3月24日、それが優先されると。それで、途中からでも、あるいは日程さえ合えば、ぜひ出席をさせていただきたいと思います。

鈴木良雄議長 4番、谷口栄子議員。

4番 谷口栄子議員 ご出席される浅香氏は、美しい山形・最上川フォーラムの運営委員をなさっていらっしゃるということで、市長がこのたびリバーツーリズムの最上川流域観光交流推進協議会の会長を務められるわけですが、山形では大変有名な方ですが、ぜひ長井の観光に対するご意見を、後ででもよろしいですので、伺っていただきたいというふうに思います。

鈴木良雄議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 もちろん、今も申し上げましたように、日程が許せば出席したいと思いますが、なおひとつ、谷口議員、もし時間がとれますれば市長室にもおいでいただいて、30分ぐらい意見交換をしたいものだというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

鈴木良雄議長 4番、谷口栄子議員。

4番 谷口栄子議員 ありがとうございます。

寝屋川市の殺傷事件を受けて、全国的に子供を危険から守ろう、学校安全対策が強化されているわけです。公明党におきまして、きのう学校の安全対策プロジェクトチーム、先ほども話ししましたけれども、田端正広座長を中心と

して小泉首相の方に申し入れに行っていたいであります。首相先頭に、内閣に対策本部を設置していただき、安全指導員の配置を早急にしていただき、学校と警察間の緊急通報システムの整備をお願いする、また、登下校時に重点パトロールのできるような体制をとっていただくということで、安心できる子供の安全対策に行っているところです。

長井市でも、さらに自主的な防犯活動を支援するためにということで、先ほど教育長からもありましたが、安全推進委員会、長井市で設置されている安全推進委員会、横の連携をとって警察と一緒に動いていただく。それには、やはり何か安全推進委員会の方たちだというようにわかるようなもの、ステッカーを張るとか腕章をすとか、みんなにもわかるような対応をしていただきたいと思います。

市長にお願いいたします。

鈴木良雄議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 予算編成のときにも市民課からいろいろな要望がありました。腕章であるとかステッカーであるとか、あるいはジャンパーであるとか、そういうことについてもご要望がありました。それから、具体的な事業等について、例えば防犯の日、地域の防犯、9月1日なら9月1日にやるというときに、そういうときに若干の援助ができないかというようなところがありましたから、具体的な計画をお聞きして対応してまいりたいと、できるだけ対応してまいりたいというふうに思います。

鈴木良雄議長 4番、谷口栄子議員。

4番 谷口栄子議員 先ほど子育て支援策の拡充について福祉事務所長から答弁いただきました。

ことしの4月からは、はなぞの保育園が社会福祉協議会の方に移管になります。それは、いろいろな子育て支援を今まで以上に充実させるためだというふうにも聞いております。今、育

児支援家庭訪問事業が、人の配置というか、なかなかとれないということで、ことしは見送りになりました。ほかにも、子育て支援としては一時保育とか病後時の保育とか、いろいろとほかの自治体は対応しております。ぜひ、長井市もおくれないように、いろいろなメニューが来ておりますので、また、県の予算も国の予算もいただける事業がたくさんありますので、ぜひ検討して取り組んでいただきたいというふうに思いますので、市長に答弁いただきます。

鈴木良雄議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 ご指摘の育児支援家庭訪問事業とほぼオーバーラップしているのが、今の子育て支援センターでさらに充実をしたいと。第一子出産児に対して保健師が家庭訪問し指導しているというのが健康課にあるんです。これ、ちょっと重なる面もありますので、まずこの事業でやっていきたいというふうに思います。

なお、今後その二つの事業が、どこがどう違って、どういう補助が受けられるのか等もお聞きをしながら、米沢市等もおやりになっていると言っていますが、なかなか具体策についていろいろと模索している段階だということもお聞きしておりますので、先進自治体等とも連絡をとりながら18年度以降に検討してまいりたいと思います。

鈴木良雄議長 4番、谷口栄子議員。

4番 谷口栄子議員 以上で終わります。ありがとうございました。

鈴木良雄議長 ここで、昼食のため暫時休憩いたします。

再開は午後1時といたします。

午前 11時52分 休憩

午後 1時00分 再開

鈴木良雄議長 午前に引き続き、休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。